

◇ 湿度、結露、カビ、空気 ◇

◆温度と湿度◆

春3月となり、暖かい日々が少しずつ増えて参りました。しかしながら、まだときおり寒い日もありこの時季は、寒暖の差が激しい季節でもあります。

体調管理には十分な気遣いを必要とする時季でもあるのでしょうか。この寒暖による影響は、単に温度（気温）を見るだけではなく、もう一つ大切な目安が「湿気量」つまり湿度です。

あまり一般的ではありませんが湿度は、温度によって大きく左右されます。気温が上がると湿度は下がり、気温が下がると湿度は上がります。この気温は湿気を抱える器を意味し、気温という器が小さくなると割合が高くなるので湿度（相対湿度）が高くなります。この気温と湿度の関係について、多くの方が、逆に考えていらっしゃいます。

その要因の一つに、本州では、夏に気温も高く湿度も高い。冬は気温が低く湿度も低い。このようなことを知識と体感で知っているからのようです。そのイメージから、気温が低いと湿度も低い、気温が高いと湿度も高いと捉えてしまっているようです。

しかし、この夏と冬の湿度の関係は、本州の位置関係にあり、季節風の影響を受けるからと云われています。

季節風は、夏に海方向から湿気の多い空気を運んできます。冬は大陸から乾いた空気を運んできます。

家の中では、暖房熱で過熱し気温が上昇すると湿度は下がります。夏は逆に冷房を強く稼働させ気温が低下すると湿度は上がります。

気温という器の大きさで割合が異なるからです。

◆目安でしかない温湿度計数値◆

湿度が低下すると結果として肌や唇が渇き、肌荒れや風邪ウィルス菌が出易くなります。それを防ぐため加湿器の稼働や、洗濯物を室内干しにするなどで、できるだけ湿度を高めようとしています。

私達は乾燥や多湿を温湿度計で確認しています。その温湿度計が正確である事が大切です。ところが意外にも正確な温湿度計は、あまり販売されておりません。特に、右写真の針で示すタイプの温湿度計は、内部の金属膜の膨張と収縮を利用して針を動かすという仕組みの構造上、この金属が数年で劣化してしまふと云われています。つまり針のタイプの湿度計は、2～3年すると、正確には示さなくなります。（温度計は、湿度計ほど影響は出にくい）

写真の通り、同じ場所に置いた温湿度計でも、示している湿度値が大きく異なります。特に針のタイプは35%以上を示しています。

ホームセンター等で販売している温湿度計では、10%も異なる湿度計が多くあります。またデジタルタイプも同様で多くの温湿度計の湿度の値は正確ではありません。

◆温湿度計の設置場所にご注意を◆

これらの正確ではない温湿度計にそって加湿器を使用し、いつまでたっても湿度は上がらず、加湿をし続けることで、結果結露やカビに悩む家も少なくありません。健康保持の加湿がむしろ不健康な空気環境になってしまいます。

また、温湿度計は設置する場所にも注意が必要です。右下の写真のように、窓の近くに温湿度計を設置すると冷やされた空気が下がって来て（コールドドラフトという現象）、実際に部屋内の温湿度より、温度は低く、湿度も高く表示してしまいます。

健康な温湿度空間を保持し、維持するためには、是非とも正確な温湿度計の選定と、設置場所を選んで下さい。



（著：東京事務所 藤原智人）

幸太の知恵袋

卵の黄身と白身を上手に分けるには

ケーキとかお菓子を作るときにね、卵の黄身と白身を分けて使うこと、あるよねえ。普通は卵の殻を使ってやるんだけど、ぶきっちょで、うまくできないって？

そんなときはね、しょうごを用意してね、あらかじめ割っておいた卵を流し入れるんだよ。

白身だけが下に落ちて、黄身はしょうごに残るんだよ。簡単だろう。もちろん、新鮮な卵を使うことも大切だよ。